

評価の実際

ここでは、本時（第3時）に行った「書く能力」①の評価の実際について、生徒の作品なども例示しながら述べる。

本単元の評価は、次の表1のような計画で行った。（ 囲みの部分は本時の評価）

表1 単元「立場と根拠を明確にして書こう」における評価計画

観点 時間	国語への 関心・意欲・態度①	書く能力①	書く能力②	言語についての 知識・理解・技能①
1				○ 【ワークシート①】
2	○ 【観察】 【ワークシート②】			
3		○ 【ワークシート③】		
4	○ 【観察】 【ワークシート④】			
5			○ 【意見文の下書き】 【振り返りシート】	
6		○ 【意見文の清書】	○ 【意見文の下書き】 【意見文の清書】 【振り返りシート】	
総括	※第2時と第4時の評価結果が順に「A, B」「B, A」「B, C」「C, B」の場合は、学習の深まりや向上を考慮して、第4時の結果を単元の評価とする。 なお、「A, C」「C, A」の場合は「B」とする。	※第3時と第6時の評価結果が順に「A, B」「B, A」「B, C」「C, B」の場合は、学習の深まりや向上を考慮して、第6時の結果を単元の評価とする。 なお、「A, C」「C, A」の場合は「B」とする。	※第5時と第6時の評価結果が順に「A, B」「B, A」「B, C」「C, B」の場合は、学習の深まりや向上を考慮して、第6時の結果を単元の評価とする。 なお、「A, C」「C, A」の場合は「B」とする。	
		※単元の評価は①と②の両方が(A)の場合を(A)、両方が(C)の場合を(C)とし、それ以外は(B)とする。		

第3時の「書く能力」①の評価の実際（表1の 囲みの部分）

「書く能力」①「自分の意見が効果的に伝わるように、根拠を吟味し、具体例や予想される反論などの構成を考えて文章を書いている」の評価については、第3時の「中学生に制服は必要だ」という意見に対して自分はどうか考えるか根拠を列挙して考え、構成表を書く場面と、第6時の学習を終えた段階での意見文の清書の記述によって行った。

第3時の指導に当たっては、前時の学習をたどって、次のようにスモールステップで活動に取り組ませ、意見文の構成を工夫させた。

- ① 「中学生に制服は必要だ」という意見に対して、賛成の根拠と反対の根拠を列挙させる。
- ② 根拠について客観性や一般性などの面から吟味させ、採用する根拠を決定させるとともに賛成か反対かの立場を明確にさせる。
- ③ 予想される反論とそれに対する意見を考えさせ、自分の意見を明確にさせる。
- ④ 「PREP方式」で構成表にまとめる。

この活動により完成されたワークシート③の構成表の記述内容を基に評価を行った。

なお、第3時の評価の結果を、第4時以降の自分の選んだテーマで意見文を書いていく際の指導に生かすようにした。

第3時の「書く能力」①については、次のような目安で評価を行った。

	[書く能力] ①
「おおむね満足できる」状況 (B)	○構成表に、意見、根拠、根拠を支える具体例、予想される反論、反論に対する意見を全て書いている。
「十分満足できる」状況 (A) のキーワード	根拠と予想される反論とにある「共通性」
「努力を要する」状況 (C) と判断される生徒への手立て	→これまでの学習をなぞる形で意見文の書き方を想起させ、対話しながら考えを明らかにさせて書かせる。

[書く能力] ①について具体的には、ワークシート③の記述によって以下のように評価した。

■「十分満足できる」状況（A）と評価した例

図1の生徒は、第3時の学習を終えた段階でワークシート③に書いた構成表の記述内容を見ると、「意見」に「制服は必要だ」と書き、「根拠」に「私服と違った統一感がでて」と書き、「根拠を支える具体例」に小学校のときの自分の感想を書いている。

そして、「反論」に「個性が尊重されないと反感がでる」と予想して書き、「反論に対する意見」として「衣服の力ではなく生活態度で個性を出せるようになればいい」と書いている。

このように、制服が必要な根拠として、統一感を出すという制服の効果を挙げて、その反論に個性が出せないという制服の本質的な性質を挙げている。これに対して、服の

力で個性を表現するのではなく、生活態度で表現すべきという意見を述べて制服の価値を高めていることがうかがえる。つまり、根拠と予想される反論が制服の機能に着目しているという「共通性」で貫かれており、まとまりのある意見文になっている。以上のことから、この生徒は「十分満足できる」状況（A）であると評価した。

この生徒のワークシート③の記述を次の時間の導入で学級全体に紹介したことで、学級の生徒の理解を確かにするとともに、本生徒の学習に対する関心や意欲も高めることができた。その結果、本生徒は第6時の自分が選んだテーマで書いた意見文の記述においても「十分満足できる」状況（A）であった。

意見	☆反論に対する意見	☆反論	根拠を支える具体例	根拠	意見
④ 以上のことから 制服は必要だ と書えられる。	① 私は、 制服は必要だ と考える。	② なぜなら 私服とちがいに 統一感がでてくる からである。	③ 例えば 私が小学校の頃に制服姿の中学生を見て、 私服と違って統一感がでてくると思ったからである。	これに対して 個性が尊ぶうなれないと 反感がでる。	しかし 衣服の力ではなく、生活態度で個性を 出せるようになればいい という考えがあるだろう。

図1 「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒のワークシート③の記述

■「おおむね満足できる」状況（B）と評価した例

図2の生徒は、第3時の学習を終えた段階でワークシート③の記述内容を見ると、制服が必要だと考える「根拠」として「朝着る服になやまなくてよい」ということを挙げており、「根拠を支える具体例」として小学校と比較して身支度の時間が短くなったと書いている。

これに対して「夜にきめておけば」朝の身支度の時間を気にする必要はないという「反論」を予想して述べているが、「反論に対する意見」には「制服は、コーディネートなど考える必要がないから夜、早くねれる」と書いている。つまり、夜に決めるにしても悩んで時間を費やすのは同じこととすれば、根拠として重視しているのは、「なやまなくてよい」という点であって、

「朝」の身支度の短縮ではないということが分かる。つまり、着る服に悩まなくてよいという制服の利点を、朝の身支度の時間の短縮化という面だけで捉えているわけではなく、精神的な負担なども軽減できるというように他の面からも捉えている可能性がうかがえる。このことから、根拠と予想される反論に十分な「共通性」が見られないため、「おおむね満足できる」状況（B）であると評価した。

この生徒には、ワークシート③の賛成の根拠の一覧に立ち返って分析させ、構成表の「根拠」の欄の記述から「朝」を除くことや「根拠を支える具体例」に「洋服代がかからない」を加えることなどの改善例を示した。また、「なやまなくてよい」という精神的な負担感だけに根拠を絞るのであれば、「反論」は「悩まないことで考える機会を奪い、考える力を伸ばす機会を奪うことになる」というように同じ観点からの反論を挙げ、「考える機会、教科の学習や学校生活での出来事に絞る方が効果的である」といった反論に対する意見を述べる方が「制服が必要だ」と主張する意見文としてまとまりのあるものになることを助言した。

この生徒の構成表は、予想される反論を考えることで自分の意見を広げたり深めたりすることができることを具体的に示している。この点で、自分の意見を作る過程を明確に示す事例として大変参考になる事例である。本人の了解を得て学級で紹介し、自分の意見を作るときにはこういった作業が効果的であることを説明した。そして、根拠と予想される反論に「共通性」をもたせた一貫性のある意見文を書くことについて学級の生徒にも理解させた。このことにより、本生徒

意見	☆反論に対する意見	☆反論	根拠を支える具体例	根拠	意見
④ 以上のことから 制服は必要だと考えられる。	① 私は、制服は必要だと考える。	② なぜなら	③ 例えは 朝の身支度の時、小学校のときはどれを着ようかなやまなくていいけど、中学生になってから着る服になやまなくていい。身支度の時間が短くなった。	① 私は、制服は必要だと考える。	② なぜなら
	③ 例えは 朝の身支度の時、小学校のときはどれを着ようかなやまなくていいけど、中学生になってから着る服になやまなくていい。身支度の時間が短くなった。	④ 以上のことから 制服は必要だと考えられる。	⑤ 夜に決めておけばいいという意見もあるかもしれない。	⑤ 夜に決めておけばいいという意見もあるかもしれない。	⑥ 夜に決めておけばいいという意見もあるかもしれない。

図2 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒のワークシートの記述

は自分の選んだテーマで意見文を書く活動では「十分満足できる」状況（A）となった。

■ 「努力を要する」状況（C）と評価となりそうな生徒への対応

本時の学習において、「努力を要する」状況（C）となりそうな生徒に対しては、これまでの学習をなぞる形で意見文の書き方を想起させ、対話しながら考えを明らかにさせて書かせた。具体的には、ワークシート②で「紙の辞書」と「電子辞書」のよい点や問題点を賛成の根拠や反対の根拠として整理して吟味したことに合わせて、制服と私服のよい点や問題点を賛成や反対の問題点として整理させて吟味させ、自分の意見を支える根拠として採用するものを決定させて構成表に書かせた。このようにして、ほとんどの生徒を「おおむね満足できる」状況（B）とするように支援を行った。

■ 観点別評価結果の総括

評価結果を総括する際に、2つの評価結果が異なる場合には、1頁の表1に記したように、以下の①、②のようにした。

- ① 第3時と第6時の評価結果が順に「A, B」「B, A」「B, C」「C, B」となる場合は、生徒の学習の深まりや向上を考慮して、第6時の結果を単元の評価とする。
- ② 第3時と第6時の評価結果が順に「A, C」「C, A」の場合は、いずれの場合においても「B」とする。

第3時は、「制服は必要である」という共通のテーマで構成を考える段階であり、その後、自分の選んだテーマで意見文を書く作業では、立場や意見を明らかにして構成を考える段階と下書きの段階で意見を交流する活動を取り入れており、立場や根拠のより明確な意見文を書くことができると考えられる。このことから第6時における評価結果をより重視することとした。第3時においては、記録に残す評価として位置付けているが、同時に、生徒の状況に応じて適切な指導・支援を行うことで、その後の学習活動の充実につなげたいとの意図もある。